

**MB&F M.A.D.ギャラリーにて、絶妙な演出で「動き」を表現するドイツ出身のアーティスト、
ニルズ・フェルカーによる精巧なキネティックアート作品を展示**

ベルリンを拠点に活動するアーティスト兼クリエイター、ニルズ・フェルカー。その優れた表現力は、ビニール袋や子供の玩具などの日用品を巧みにコンポジションにまとめ上げ、芸術作品へと昇華する。彼の作品はいずれも、まるで命を吹き込まれたかのように生き生きとしており、電子機器やプログラミングによって完璧に制御された動きは、見事な振り付けのダンスを想わせる。台北市立美術館の依頼で制作された「Twelve」(トゥエルブ)など、大掛かりなアートインスタレーションで知られるフェルカーだが、MB&F M.A.D.ギャラリーでの展示のために特別に小型の作品を準備。この「Fuchsia, Orange & Royal Blue」(フューシャ、オレンジ&ロイヤルブルー)展では、ハチの巣状の要素を用いて、複雑で細かい動きを感性豊かに表現する。

精密な技術を駆使して、ありふれた日用品から驚異的な機械仕掛けを生み出すフェルカー。今回展示されるコレクションには、彼の創造性によって、M.A.D.ギャラリーの中核をなすキネティックアートの世界が映し出されている。ハチの巣のような扇型のフォルムが一斉に回転し、同調して動く様子は実に魅力的だ。このキネティックアート作品を前にすると、延々と新しい視点で装飾の美に見入ってしまうことだろう！

「Fuchsia, Orange & Royal Blue」(フューシャ、オレンジ&ロイヤルブルー)

「Fuchsia, Orange & Royal Blue」展では、3点のキネティックアート作品を紹介。いずれも、ハチの巣状のデコラティブなフォルムが回転し、折り畳まれ、そして再び広がりながら、まるでオリンピックのシンクロナイズドスイミングのように美しく演出された正確な動きを繰り広げて観る者を魅了する。

フェルカーの立体作品は、パーティーの飾り付けのような平凡な素材を使って全く別のイメージを創り出したもので、オブジェが動く、動かないにかかわらず、素晴らしい魅力を持つ。そこでは、鮮やかなロイヤルブルーやビビッドなフューシャ、明るいオレンジといった存在感のあるカラーでデザインされた折り紙風の紙製の飾りが、セミマットなラッカー仕上げのフレームを背景に、まるでダンスのような動きを披露する。そして動きが止まると、ハチの巣状の飾りが、ポーズを取るように美しい構図を見せてくれる。

これらの作品では、その裏側も、表側と同様に強い印象を与えるだろう。インテリジェントモーターと極めて複雑な電子機器が配された裏面は、ケーブルや回路基板、銅接続部が入り組み、電気の迷路ともいえるべき様相を呈しているのだ。フェルカーは言う。「このプロジェクトでは、これまでとは違う視点から作品の表現を模索することができました。作品の構造や動作機構を細部までひとつひとつ作り上げていく作業は、エキサイティングでやりがいのある仕事でしたよ。」

紙製のフォルムがクルクルと回る時に生じる音に、ぜひ耳を傾けていただきたい。この紙の飾りが開いて閉じるたびに聞こえる音は、砂浜に打ち寄せた波が静かに砕ける情景を思い起こさせるのではないだろうか。

この作品には極めて静かなモーターが採用されているため、動作機構の雑音に邪魔されることなく、紙のたてる密やかな音を楽しむことができる。フェルカーはさらに次のように語っている。「静かなモーターを導入した理由のひとつは、作品を鑑賞する人に、動作の仕組みに気を取られず、動くアートが発揮する美しさをただひたすら楽しんでほしいからです。」

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

「Orange」は、ハチの巣状の鮮やかなタンジェリンオレンジカラーの紙製フォルムを4つ組み合わせたコンポジションで、50cm x 50cmの四角い台に取り付けられている。この作品は28点の限定制作品で、単独の小品、あるいは2連作や3連作の一部としての取扱いとなる。「Fuchsia」は、5つの雨粒型の紙製フォルムを1列に並べて立てた作品で、長テーブルに配置すれば際立った視覚効果を生み出すだろう。本品のサイズは112cm x 7cmで、18点の限定制作品となっている。「Royal Blue」は8点の限定制作品で、16個の鮮やかなコバルトブルーの円形扇子型フォルムで構成され、それらが一辺110cmの正方形のフレームを背景にダンスのような動きを繰り広げる。

どの作品でも、フレームとなる台には、ハチの巣状紙製オブジェの補色としてダークトーンのラッカー仕上げが施されている。

制作

「Fuchsia, Orange & Royal Blue」コレクションの制作の基本はハチの巣状のデコラティブなフォルムだが、これはパーティーの飾り付けとしてよく使われるアイテムだ。フェルカーはこのオブジェを使って、キネティックアートのための独創的なアイデアを生み出した。紙製の飾りをモーターに連結し、想像力豊かなデザインから実際に機能する試作品を作ったのだ。

この結果を非常に気に入ったフェルカーは、細かい変更を加えて2つの系統の試作品を制作し、いずれも徐々に完成に近づいていった。この比較的シンプルなアイデアが現実の作品になったのは、1年後のことだった。フェルカーは次のように説明している。「仕様をカスタマイズして決定するための細かいプロセスでは、電気面と機械面の作業を同時に進め、制作全体を通じて動力伝達を制御するプログラミングを行います。このコレクションには、エレクトロニクスに新たな境地を開くような回路基板を使っているんですよ。」

74個のカスタマイズしたモーターを配設し、1万箇所近くをはんだ付けするなど、数か月にわたって熱心に作業を続けた結果、マシンアートの傑作が誕生した。ハチの巣状の各オブジェの裏側には一組のモーターが取り付けられており、そこから動作に必要な電力が供給される。フェルカーは、この作品のために特別なモーターをひとつひとつ製作し、動作音を抑えながら最高の機能性を実現している。

フェルカーが高度な技術により設計した回路基板は、オーケストラを操る指揮者のように、このコンポジション作品のあらゆる動きを制御する。モーターの配線と取り付けには、耐久性に優れた合成ポリマー、ポリスチレンをフェルカーが定めた仕様に従って完璧に加工した部材を採用。これにセミマットなラッカー仕上げを施して、作品の背景としても使用している。

経歴

1979年に生まれドイツで育ったフェルカーは、名門校のワイマール・バウハウス大学で学んだ。2004年にビジュアルコミュニケーションの学位を取得して同校を卒業したのち、ベルリンに移り、兄とともにグラフィックデザインの仕事に従事。2010年、フィジカルコンピューティングとメディアアートの分野を中心にアーティストとしての活動を開始する。

気に入ったブログなどで自身の作品を公開したところ、好評を博す。「One Hundred and Eight」(ワンハンドレッド アンド エイト)はビニール袋で構成されたアートインスタレーションで、それらの袋がまるで呼吸

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36

する肺のように膨らんだりしぼんだりする。フェルカーは、この幻想的なイメージを作り上げるために、数百台ものコンピューター用冷却ファンをオンラインで購入した。この作品がきっかけとなり、機械仕掛けやテクノロジーと日用品を組み合わせ、独創性あふれるコンポジションを次々に制作する。彼の作品コレクションは、これまでにドイツのツェレ美術館、東京のデザイン施設「21_21 Design Sight」、中国の第4回西湖国際彫刻展、韓国の平昌ビエンナーレなど、世界各地で展示されてきた。

フェルカーは現在、ベルリンを生活とアート活動の拠点としている。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36